

小学校では、キャンプや高原学校、臨海学習等の準備を進めている時期です。中学校では、中体連の大会が終わった部活動は引継ぎ、県大会や北信越大会まで進む部活動は、熱のこもった練習が行われている時期です。こうした活動を通して、子どもたちは人間関係が深まっていき、クラスも、児童生徒一人一人も成長していきます。その成長を実感しながら、どのように1学期のまとめをしていけばよいのか考えてみましょう。

<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

「困った子」から「困っている子」へ

- 【聞 く】簡単な指示に対して、聞き間違いや聞き漏らしがある
- 【不 注 意】忘れ物・なくし物が多い
- 【対人関係】口げんかやこぜりあいなど、友だちとのトラブルが多い

これらの姿は、「特別支援教育コーディネーターハンドブック」（平成25年3月長野県教育委員会：HPよりダウンロードできます）p.86の実態把握のためのチェックシートからの抜粋です。

教師は、ややもするとこうした児童を「困った子」と捉えがちです。ただ「しっかりしなさい」という指摘だけをしていることはありませんか。大事なことは「困っているのは子ども自身」という視点から必要な支援をすることです。

例えば、こうした忘れ物が多い児童に対して、毎日書く連絡帳を担当も一緒に書いたり、一つ一つ一緒に確認したりしてから、児童を家に帰す等の取組をしてみてはどうでしょうか。

「〇年△組よくなったことランキング発表会」を開いてみませんか

学級全体で「学級のよくなったこと」「学級全体で頑張ったこと」を共有し、1学期の学級の成長を確認することで、2学期につなげましょう。

- ① 学級のよくなったこと3つを見つけ、順位をつけて、それぞれ付箋紙に書くように伝える。（ブレインストーミング）

- ② 付箋紙を模造紙に同じ内容ごとに貼る。

(KJ法)

- ③ 枚数が一番多かった内容からランキングをつける。（同数の場合は1位の枚数が多い方を上位とする）

- ④ ランキングの発表では、その内容についての理由を発表する。

あいさつの声が大きくなりました。

※ 子どもが学級を見つめることは学級という一つの社会と自分との関係を見つめることです。ここにもキャリア教育の視点があります。



<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

カレンダーを使った学級生活評価

午後学活での、一日の反省をする場面。わずか15分程度の会で、連絡や歌などが入ると「反省」に至らないことがあります。特に、9月に合唱コンクールがある学校では合唱に熱が入り、担任の話でまとめがちです。でも、主体はあくまでも子どもたち！

メモ欄が大きなカレンダーを使って、一日の学級評価を「顔絵」で続けてみるのはいかがでしょうか。「今日はどうな日だったか」を顔絵に表現する。担任か学級当番あるいは絵の好きな生徒が描いてもよい。泣き顔や怒った顔が続くと、子どもたちは心の中で、「明日はいい日になりたいな」と奮起したり、今日が笑顔で描かれたりすると、その瞬間にクラスの中に、笑顔が広がってくるものです。

月が終わったら、そのページを教室の後ろに貼っておくと、学級の歴史になります。



学級に力を生み出すのは「求心力」のある活動です



学級で取り組んでいる活動を一過性のイベントで終わらせず、生徒のキャリア発達を促すものにしていくためには、「求心力」のある活動にすることが大切です。

「求心力」を生み出す条件は、次の3点です。

- 1 生徒が本気になれる活動であること
- 2 生徒に学校、地域に貢献しているという自覚が生まれる活動であること
- 3 学級全員の仲間で行うことができる活動であること

このような活動が生まれると学級力は向上してくるものです。

